

口蓋扁桃遊出細胞について

第2編 急性口蓋扁桃炎における遊出細胞について

金沢大学医学部耳鼻咽喉科学教室(主任松田教授)

津 田 三 郎

(昭和30年12月1日受附)

Studies on the Wandercells of the Palatine Tonsils.

Part 2. On the Wandercells of Tonsillitis acuta.

Saburo Tsuda

*From the Oto-Rhino-Laryngological Department
of the medical Faculty in Kanazawa University
(Director : Prof. R. Matsuda)*

第1章 緒 言

第1編において健康者の口蓋扁桃遊出細胞の検索を行ったが、本編では急性炎症の扁桃について検索した。末梢血液では急性炎症時、中性好性細胞の増加を来すものであるが、遊出細胞

においてその成分、細胞出現度及び貪食細胞等は如何なる変化を来すものであるか、興味ある問題であつて以下その検索成績を述べる。

第2章 検索材料並びに採取法及び検索法

第1項 検 索 材 料

第1編と同様に人間の口蓋扁桃であつて、急性カタル性口蓋扁桃炎及び急性腺窩性口蓋扁桃炎の扁桃の表面及び腺窩から採取した。被検人員20名、男性7名、女性13名、13~48歳である。

第2項 採取法及び検索法

第1編における場合と同様である。但し扁桃の表面の白苔及び腺窩栓子は検索の際に殆んど細胞塊となつていて種別判定不能のため採取から除外した。

第3項 検 索 項 目

細胞成分、細胞出現度及び貪食細胞について検索した。詳細は第1編におけると同様である。

第3章 検 索 成 績

本検索において出現を見た細胞成分は中性好性細胞、リンパ球、「エオジン好性細胞」、「プラズマ細胞及び破壊細胞」であつて、各細胞の特性は第1編におけると同様である。

検索成績を表面、腺窩別に一括すれば、第1表及び第2表の如くである。

第1節 表面における観察

第1項 中性好性細胞について

中性好性細胞最も多く出現し、平均値 78.77 ± 2.34%であつて、最高は95.0%、最低は54.5%で各例間の差異は健康扁桃に比して少ない。退行変性細胞55.85%、桿状及び分葉核細胞22.92%で退行変性細胞が遙かに多数である。第7例及び第10例の如きはすべて退行変性細胞のみである。

第2項 リンパ球について

第 1 表 (表 面) %

番 号	氏 名	年 令	性 別	細 胞				中 性 好 性 細 胞				淋 巴 腺		エ 性 オ シ ン 好	プ 胞 ラ ス マ 細	破 壞 細 胞	中 巴 性 球 細 胞 %	細 胞 出 現 度	食 喰 細 胞
				退 行 變 性		桿 状 及 び 分 葉 核		計	食 喰 な じ ま の 細 胞	食 喰 な じ ま の 細 胞	計	食 喰 な じ ま の 細 胞	計						
				食 喰 な じ ま の 細 胞															
				50.5	10.5	41.0	29.5	2.5	32.0	73.0	21.0	0	21.0						
1	中 佐○	17	♀	50.5	10.5	41.0	29.5	2.5	32.0	73.0	21.0	0	21.0	0	6.0	28.76	3	13.0	
2	森 清○	20	♂	50.5	0	50.5	39.5	0.5	40.0	70.5	23.5	0	23.5	0	6.0	33.33	5	0.5	
3	藤 茂	13	♂	22.0	1.0	23.0	55.5	1.0	56.5	79.5	13.0	0	13.0	0	7.5	16.35	4	2.0	
4	森 照○	23	♀	44.5	3.0	47.5	16.5	4.5	21.0	68.5	30.0	1.0	31.0	0	0.5	43.79	5	8.5	
5	三 正○	16	♀	54.0	2.5	56.5	19.5	3.0	22.5	79.0	18.0	0	18.0	0	3.0	22.78	5	5.5	
6	森 葉○	28	♀	47.0	8.0	55.5	22.0	3.5	25.5	80.5	17.0	0	17.0	0	2.5	21.11	5	11.5	
7	金 信○	24	♀	81.5	6.5	88.0	0	0	0	88.0	8.0	0	8.0	0	4.0	9.09	4	6.5	
8	藤 保○	17	♂	56.5	5.0	61.5	20.5	1.0	21.5	83.0	11.5	0	11.5	0	5.5	13.85	4	6.0	
9	中 邦○	28	♂	42.0	18.0	60.0	8.0	11.0	19.0	79.0	10.0	0	10.0	0	11.0	12.65	3	29.0	
10	沼 信○	30	♀	50.0	2.5	52.5	4.0	0	4.0	56.5	43.0	0	43.0	0	0.5	76.1	5	2.5	
11	三 澄○	15	♀	8.0	1.0	9.0	73.0	5.0	78.0	87.0	13.0	0	13.0	0	0	14.94	5	6.0	
12	熊 幸○	16	♂	74.5	3.5	78.0	12.0	5.0	17.0	95.0	5.0	0	5.0	0	0	5.28	5	8.5	
13	楠 ○子	16	♀	66.0	1.5	67.5	12.5	1.5	14.0	81.5	18.5	0	18.5	0	0	22.69	5	3.0	
14	沼 と○	40	♀	14.0	0.5	14.5	61.0	5.5	66.5	81.0	12.0	0.5	12.5	0	6.5	14.82	4	6.5	
15	金 惠○	17	♀	34.0	4.5	38.5	13.5	2.5	16.0	54.5	44.0	0	44.0	0	1.5	80.73	4	7.0	
16	山 太○	48	♀	72.0	2.5	74.5	4.5	1.0	5.5	80.0	17.5	0	17.5	0	2.5	21.87	4	3.5	
17	吉 勇○	19	♂	70.0	18.0	88.0	1.0	0.5	1.5	89.5	10.5	0	10.5	0	0	11.76	5	18.5	
18	坂 清	12	♂	80.0	0	80.0	9.5	0	9.5	89.5	10.5	0	10.5	0	0	11.76	5	0	
19	梅 美○子	16	♀	70.0	3.5	73.5	0	0	0	73.5	24.0	0	24.0	0	2.5	32.51	5	3.5	
20	水 武○	15	♀	77.0	1.5	78.5	6.5	1.5	8.0	86.5	12.0	0	12.0	0	1.0	13.88	5	3.0	
平 均				50.98	4.87	55.85	20.45	2.47	22.92	78.77 ± 2.34	18.05	0.07	18.12 ± 2.19	0	0.02	23.01	3.02	4.5	7.41

第 2 表 (隙 窩) %

番 号	氏 名	年 令	性 別	細 胞				中 性 好 性 細 胞				淋 巴 腺		エ 性 オ 細 シ ン 好	プ 胞 ラ ス マ 細	破 壞 細 胞	中 巴 性 球 細 胞 %	細 胞 出 現 度	食 嘔 細 胞
				退 行 變 性		桿 状 及 び 分 葉 核		計		食 嘔 な 食 嘔 な		計							
				食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞	食 嘔 な 細 胞								
1	中 〇 佐 〇	17	♀	23.0	4.0	27.0	24.5	4.5	29.0	56.0	35.5	0	35.5	0.5	0	8.0	63.39	4	8.5
2	森 〇 清 〇	20	♂	32.0	2.0	34.0	19.5	0.5	20.0	54.0	39.5	0	39.5	0.5	0	6.0	73.14	5	2.5
3	藤 〇 茂 〇	13	♂	9.0	0.5	9.5	11.5	0.5	12.0	21.5	75.0	0	75.0	0	0	3.5	348.83	3	1.0
4	森 〇 照 〇	23	♀	27.5	0	27.5	10.0	0.5	10.5	38.0	61.0	1.0	62.0	0	0	0	163.15	5	1.5
5	三 〇 正 〇	16	♀	62.5	0	62.5	1.5	0.5	2.0	64.5	33.0	0	33.0	0	0	2.5	51.16	5	0.5
6	森 〇 葉 〇	28	♀	15.5	0	15.5	20.5	0.5	21.0	36.5	62.0	0	62.0	0	0	1.5	169.86	4	0.5
7	金 〇 信 〇	24	♀	71.5	1.0	72.5	3.0	0	3.0	75.5	19.0	0	19.0	0	0	5.5	25.16	4	1.0
8	藤 〇 保 〇	17	♂	80.0	0	80.0	0	0	0	80.0	15.5	0	15.5	0	0.5	4.0	19.37	5	0
9	中 〇 邦 〇	28	♂	7.0	4.5	11.5	1.0	0	1.0	12.5	85.0	2.5	87.5	0	0	0	700.0	5	7.0
10	沼 〇 信 〇	30	♀	43.0	1.0	44.0	15.5	0	15.5	59.5	39.5	0.5	40.0	0	0	0.5	67.23	4	1.5
11	三 〇 澄 〇	15	♀	24.5	1.0	25.5	5.0	0	5.0	30.5	64.5	0	64.5	0	0	5.0	211.47	5	1.0
12	熊 〇 幸 〇	16	♂	59.0	9.5	68.5	10.5	2.0	12.5	81.0	19.0	0	19.0	0	0	0	23.45	5	11.5
13	楠 〇 子 〇	16	♀	50.0	0.5	50.5	27.0	78.0	22.0	0	22.0	0	22.0	0	0	0	28.2	5	1.0
14	沼 〇 と 〇	40	♀	38.0	3.5	41.5	24.0	0.5	24.5	66.0	29.0	0	29.0	0	0.5	4.5	43.93	5	4.0
15	金 〇 惠 〇	17	♀	30.5	20.5	51.0	7.0	2.0	9.0	60.0	39.0	0	39.0	0	0	1.0	65.0	5	22.5
16	山 〇 た 〇	48	♀	23.0	0.5	23.5	0	0	0	23.5	76.5	0	76.5	0	0	0	325.53	4	0.5
17	吉 〇 勇 〇	19	♂	63.0	25.5	88.5	0	0	0	88.5	11.0	0.5	11.5	0	0	0	12.99	5	26.0
18	坂 〇 清 〇	12	♂	70.5	0	70.5	0	0	0	70.5	29.5	0	29.5	0	0	0	41.84	4	0
19	梅 〇 美 〇 子	16	♀	27.0	0	27.0	5.0	0	5.0	32.0	63.5	0	63.5	0	1.0	3.5	198.43	4	0
20	水 〇 武 〇	15	♀	61.5	5.0	66.5	0	0	0	66.5	30.0	0	30.0	0	0.5	3.0	45.11	5	0.5
平		均		40.9	3.95	44.85	9.27	0.6	9.87	54.72 ± 4.74	42.45	0.22	42.67 ± 4.98	0.05	0.12	2.42	77.98	4.55	4.77

淋巴球は中性好性細胞に反してその平均値は僅少で出現率は $18.12 \pm 2.19\%$ であり、最高は 44.0% 、最低は 5.0% である。

第3項 「エオジン好性細胞について

「エオジン好性細胞は全く出現を見ない。

第4項 「プラズマ細胞について

「プラズマ細胞の出現を見たのは第20例の1例のみである。

第5項 破壊細胞について

破壊細胞は中性好性細胞及び淋巴球に比し非常に少なくその平均値は 3.02% で第11例、第12例、第13例、第17例及び第18例の5個例に出現を見ない。

第6項 中性好性細胞、淋巴球百分比

中性好性細胞、淋巴球百分比の平均値は 23.01% で明らかに中性好性細胞の出現率が大きいことを示している。個人的には最高は 80.73% 、最低は 5.28% であつて全例において中性好性細胞が多数出現している。

第7項 細胞出現度について

細胞出現度は平均値 4.5 で高度である。即ち12個例において最高の5を示している。

第8項 貪食細胞について

貪食細胞はその平均値は 7.41% で中性好性細胞は 7.34% 、淋巴球は 0.07% で、中性好性細胞の貪食率が高い。各個人別では最高 29.0% 、最低 0% であつて第18例には全く出現を見ない。

第2節 腺窩における観察

第1項 中性好性細胞について

中性好性細胞は平均値 $54.72 \pm 4.74\%$ を示し、

最高 88.5% 、最低 12.5% である。退行変性細胞は 44.85% 、桿状及び分葉核細胞は 9.87% であつて退行変性細胞の出現が遙かに多い。

第2項 淋巴球について

淋巴球は平均値 $42.67 \pm 4.98\%$ であつて、最高 87.5% 、最低 11.5% である。

第3項 「エオジン好性細胞について

「エオジン好性細胞は平均値 0.05% であつて第1例及び第2例にのみ出現している。

第4項 「プラズマ細胞について

「プラズマ細胞は平均値 0.12% であつて第8例、第14例、第19例及び第20例に出現している。

第5項 破壊細胞について

破壊細胞は平均値 2.42% であつて7例に出現を見ていない。

第6項 中性好性細胞、淋巴球百分比

中性好性細胞、淋巴球百分比は平均値 77.98% であつて、各個人別では最高 700.0% 、最低 12.99% で動搖が著明であるが、平均して中性好性細胞が多く出現している。

第7項 細胞出現度について

細胞出現度は平均値 4.55 で高度である。即ち12例において最高値の5を示している。

第8項 貪食細胞について

貪食細胞は平均値 4.77% で中性好性細胞 4.55% 、淋巴球 0.22% であつて中性好性細胞の貪食細胞が多く出現している。各個人別では最高 26.0% 、最低 0.5% であつて第8例、第18例及び第19例には全く出現を見ない。

第4章 総括並びに考按

前章の検索成績を総括すれば次の如くである。

1. 遊出細胞成分について

表面では平均値は中性好性細胞 $78.77 \pm 2.34\%$ 、淋巴球 $18.12 \pm 2.19\%$ 、「エオジン好性細胞 0% 、「プラズマ細胞 0.02% 、破壊細胞 3.02% であり、腺窩では中性好性細胞 $54.72 \pm 4.74\%$ 、

淋巴球 $42.67 \pm 4.98\%$ 、「エオジン好性細胞 0.05% 、「プラズマ細胞 0.12% 、破壊細胞 2.42% である。即ち中性好性細胞は表面では $78.77 \pm 2.34\%$ 、腺窩では $54.72 \pm 4.74\%$ であつて共に過半数を占め特に表面において多数である。

淋巴球は表面では $18.12 \pm 2.19\%$ 、腺窩では $42.67 \pm 4.98\%$ であつて共に半数以下である

が、腺窩において多数である。この関係を中性好性細胞、リンパ球百分比について見れば、なお一層明らかである。即ち表面では 23.01%、腺窩では 77.98% で共に 100 以下の数値であつて中性好性細胞が多数を占めることを示している。各個人においては第10例及び第15例以外は表面には中性好性細胞が多く、腺窩にはリンパ球が増加の傾向を示している。

2. 細胞出現度について

細胞出現度は表面 4.5、腺窩 4.55であつて腺窩において僅かに多い。

3. 貪食細胞について

貪食細胞は表面では7.41%、腺窩では4.77%で、表面において多数である。細胞別では表面

は中性好性細胞7.34%、リンパ球0.07%、腺窩は中性好性細胞4.55%、リンパ球0.22%であつて共に中性好性細胞の貪食細胞が絶対多数である。

以上によつて見るに急性炎症時の遊出細胞の出現状態はその成分の種類に関しては、表面は健康時と同様であるが、腺窩では中性好性細胞の増加を示している。

細胞出現度は表面、腺窩共に著明に増加している。

貪食細胞は健康時と同様に表面に多数である。

即ち腺窩においては健康時に比し中性好性細胞増加し、全般的に遊出細胞の出現が旺盛である。

第5章 結 論

急性口蓋扁桃炎の20例について検索して次のような結果を得た。

1) 遊出細胞成分は表面では中性好性細胞 $78.77 \pm 2.34\%$ 、リンパ球 $18.12 \pm 2.19\%$ 、 Γ エオジン好性細胞 0%、 Γ プラズマ細胞 0.02%、破壊細胞 3.02%であり、腺窩では中性好性細胞 $54.72 \pm 4.74\%$ 、リンパ球 $42.67 \pm 4.98\%$ 、 Γ エオジン好性細胞 0.05%、 Γ プラズマ細胞 0.12%、

破壊細胞 2.42%である。

2) 中性好性細胞、リンパ球百分比は表面は 23.01%、腺窩は 77.98%である。

3) 細胞出現度は表面は 4.5、腺窩は 4.55であつて共に出現旺盛である。

4) 貪食細胞は表面は7.41% (中性好性細胞 7.34%、リンパ球 0.07%)、腺窩は 4.77% (中性好性細胞 4.55%、リンパ球 0.22%) である。

(主要参考文献は第4編末記に掲載する)